

## 自己評価報告書(最終報告)

報告者

社会系コース/立岡 裕士

## ■平成23年度の目標に対する自己点検・評価

## I. 学長の定める重点目標

## I-1. 教育大学教員としての授業実践

本学の目的は、豊かな教養と教育実践力をもった教員を養成し、学校現場に送り出すことにある。このことを実現するには、教科専門・教科教育・教職専門等の各分野の授業が、学校現場の実践と関連性が保たれている必要がある。あなたは、教員養成大学の教員として、本年度はどのような授業計画を立て実現しようとするのか、これまでの取り組み状況を総括し、具体的に示して欲しい。

**1. 目標・計画**

現在の日本においては学校教員といえどもその活動は授業や学校教育に局限されておらず社会全体における教育機能の一部を構成するものであることを自覚しなければならない。  
この認識に基づき、これまでの授業では、教育力を根底で支えるところの自学的能力・認識の向上を図るよう心がけてきた。本年度の授業においても、学生が自ら学ぶことの必要性を自覚するよう誘導し、それとともに自ら学ぶための手がかりをなるべく多く供給することをめざす。具体的には、参考文献目録を作成し、それによって学生が自ら講義よりもさらに先に進むよう計らう。

**2. 点検・評価**

中間報告に挙げた授業にくわえ、地図学概論・地誌学特論においても、参考文献の指示を従来のものをさらに充実させた。

## II. 分野別

## II-1. 教育・学生生活支援

**1. 目標・計画**

○昨年度に引き続き、授業に直接関係する、およびそれ以外の、地理学・地図学関係の参考文献の一覧を(できる限り解題つきで)作成し、web上に掲示する。  
○講義期間中につとめて課題を出し、それに対する批評をなすことにより授業の双方向性を高める。

## **2. 点検・評価**

参考文献目録は一部web上に掲示したが解題をつけるには至らなかった。  
授業において課題を出し講義中にそれを批評する方式は、初等中等教育実践基礎演習（社会）および地誌学特論で実行した。

## **Ⅱ－2. 研究**

### **1. 目標・計画**

○近代の空間認識に関する学会発表をする。  
○科研(分担)の作業を進める。

## **2. 点検・評価**

○古代地中海世界の地誌については、空間の理論研究会(2012年3月30日 於首大)において「古代ギリシア世界の郷国地誌について」と題して発表した。  
○科研(分担)の作業はおおむね予定通り進めることができた。

## **Ⅱ－3. 大学運営**

### **1. 目標・計画**

○課せられた仕事を行う。

## **2. 点検・評価**

課せられた仕事(社会系コース長・社会連携委)を行った。

## Ⅱ-4. 附属学校・社会との連携, 国際交流等

### 1. 目標・計画

- 徳島地理学会を通して徳島県下の地理学・地理教育の振興を図る。
- 鳴門西小学校で地図教室を開く。
- 公開講座を担当する。
- 徳島県教員講習(10年講習など)の講師を担当する。

### 2. 点検・評価

中間報告に記載したもののほかに下記作業を行った。

- 高校地理担当者と県内大学地理教官との懇話会(2011年9月18日 於板野総合教育センター)に参加して地図教育とセンター入試とに関する報告を行った。
- 小学校教員資格認定試験の問題点検委員をつとめた。

## Ⅲ. 本学への総合的貢献(特記事項)